

第三次環境基本計画

— 暴露・有害性情報の不足の解消 —

- 既存化学物質の安全性点検の加速化
 - 約2万種の既存化学物質のうち、平成16年度までの安全性調査済み又は調査着手済みの既存化学物質の数は、分解性・蓄積性が1455物質、人毒性が275物質、生態毒性が438物質
 - 官民連携により高生産量化学物質の有害性情報を収集・発信する「JAPANチャレンジプログラム」を推進
 - 構造活性相関などの簡易・迅速な安全性評価手法を開発し、人の健康・環境への影響を評価し、適切な管理を推進促進
- 環境モニタリングの推進
 - 大気・水・底質などの環境媒体、生体試料の分析を強化
- 暴露情報の整備の推進
 - 製造量、使用量、用途等の環境リスク評価に必要な情報を把握
 - 2020年までに、製造・輸入から使用・消費・廃棄に至るまでの化学物質のトータルな流れを把握